

東京オリンピック・パラリンピックで元気な滋賀づくり

資一総政1

企画調整課 内線3313
文化振興課 内線3344

【平成28年度予算額43,689千円】

目指す方向

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を滋賀に取り込むため、参加国代表選手(団)の事前合宿を誘致し、県民との交流機会を設けるとともに、オリンピック憲章に基づき、滋賀の特色ある文化の魅力を世界に発信するため、文化プログラムを展開します。

事業展開

～世界から滋賀へ、滋賀から世界へ 文化とスポーツで世界とつながる新しい滋賀の豊かさ創造～

1. 東京オリンピック・パラリンピックスポーツ交流創出事業

【23,886千円】

- 平成27年度に策定する「滋賀スポーツ交流創出戦略(仮称)」に基づき、海外における事前合宿誘致のためのトップセールスやプロモーション活動等を展開。
- ラグビーワールドカップ2019のキャンプ地に申請。
- 参加国代表選手団の意思決定に影響力を有するキーパーソン(有力選手、コーチ、在日大使館・領事館員等)を本県に招待し、滋賀の魅力とおもてなしを体感していただくプロモーション事業を実施。



- スポーツ大会の招致・創出など、滋賀においてスポーツを活用した地域活性を推進する組織(地域スポーツコミッション)の設立に向けて設立準備委員会を設置し、実施計画を作成。

2. しがスポーツの魅力総合発信事業

【8,803千円】

- 本県ゆかりのトップアスリート「しがスポーツ大使」と県民との交流を推進。
- 本県を本拠地とする東レアローズやMIOなどのスポーツチームの試合を子どもたちに生で観戦する機会を提供する「しがスポーツの子」事業
- スポーツ情報総合発信サイト「しがスポーツナビ!」の運営



3. 文化プログラムフェスティバル事業

【11,000千円】

①次世代芸術フェスティバル

次代を担う若手芸術家の育成をめざし、音楽、演劇、ダンス、伝統芸能、美術、写真などジャンルを超えた若手芸術家の祭典を開催!!

【各会場でのイベント例】

- ・若手芸術家(次世代文化賞受賞者等)による公演
- ・若手芸術家への実技指導セミナー
- ・県内のジュニアオーケストラなど芸術家の卵による公演
- ・若手作家が出品するアートフリーマーケットの実施

【メイン会場】
びわ湖ホール



近代美術館

- ・校舎を使った若手芸術家の作品展示
- ・ワークショップ(作品づくり体験)の実施
- ・空き教室等での作品制作

- ・次世代文化賞受賞者作品展示【1週間程度】
- ・ワークショップ(作品づくり体験)の実施

②国際交流フェスティバル

国際的な音楽家(チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院他)によるクラシックコンサートと公開レッスン(主催:国際音楽交流協会)を実施。
→本格的音楽を通じた交流
→小中学生や障害者に体験機会の提供
→地域関係者の積極的参加



～東京オリパラ、国体・全障に向けた文化の担い手育成と機運醸成～

滋賀・びわ湖ブランド推進事業

予算額:258,916千円

滋賀・びわ湖+DESIGNプロジェクト

“新たな視点でリサーチし、発掘した魅力を積極的に発信”



○ 滋賀の魅力発掘

ブランディングディレクターのもと、これまでのリサーチ結果を編集し、webやイベント等を通じて滋賀の魅力を発信します。

- ・ 滋賀の魅力発信素材の作成
- ・ 滋賀・びわ湖ブランド展・MUSUBU SHIGA展
- ・ 滋賀・びわ湖ブランドネットワーク交流会

○ 「滋賀・びわ湖ブランド」の首都圏発信・拠点整備の機運醸成

首都圏在住の滋賀出身・ゆかりの方へのセミナーや企業連携を進めるとともに、滋賀を発信するネットワークを構築します。

- ・ 早稲田大学自治体提携講座
- ・ ふるさと滋賀再発見セミナー、滋賀ゆかりの企業連携
- ・ 滋賀県ゆかりの人ネットワーク構築フォーラム

首都圏情報発信拠点整備

“「滋賀・ブランド」を発信する拠点の整備”



○ 首都圏情報発信拠点の推進

販売機能の先行展開として、東京・秋葉原の「ちゃばら」内に開設した滋賀県コーナーで、滋賀の食の魅力を発信するとともに、新たな拠点整備を進めます。

- ・ 「ちゃばら滋賀県コーナー」
(食の販売やワークショップの実施)
- ・ 新拠点の整備
(近江商人ゆかりの日本橋を中心に物件選定)

[illegible]

【予算額：7, 413千円】

多様な主体による協働を推進するため、情報共有化・情報交換のシステム「協働ネットしが」の再構築や、政策形成段階における協働を推進する協働プラットフォームの構築を行う。

「協働ネットしが」の再構築（7,000千円）

ウェブサイト(外部ポータルサイト)を開設、活用しやすい情報発信・情報交換のシステムづくり

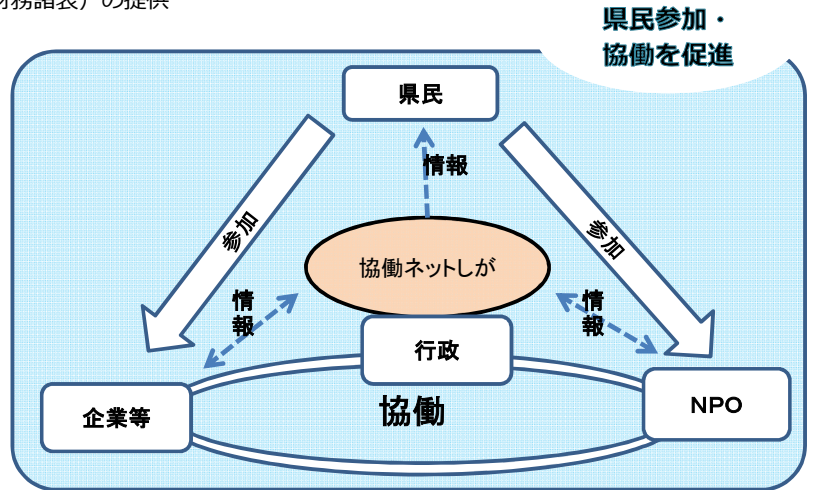
【現行】

- ・行政情報の提供、NPO法人の活動情報（定款、事業報告書、財務諸表）の提供
【内閣府：NPO法人ポータルサイトを使用】

【新規】

- ・活動内容等による絞り込み検索機能を付加し、NPO等を容易に検索できる仕組み等を構築
⇒ NPO等の詳細検索を可能、団体情報について団体自らが編集・加筆を可能
- ・行政と県民が情報や課題の共有
⇒ 行政情報を公開し、オープンデータ（法人リスト等）として活用を推進

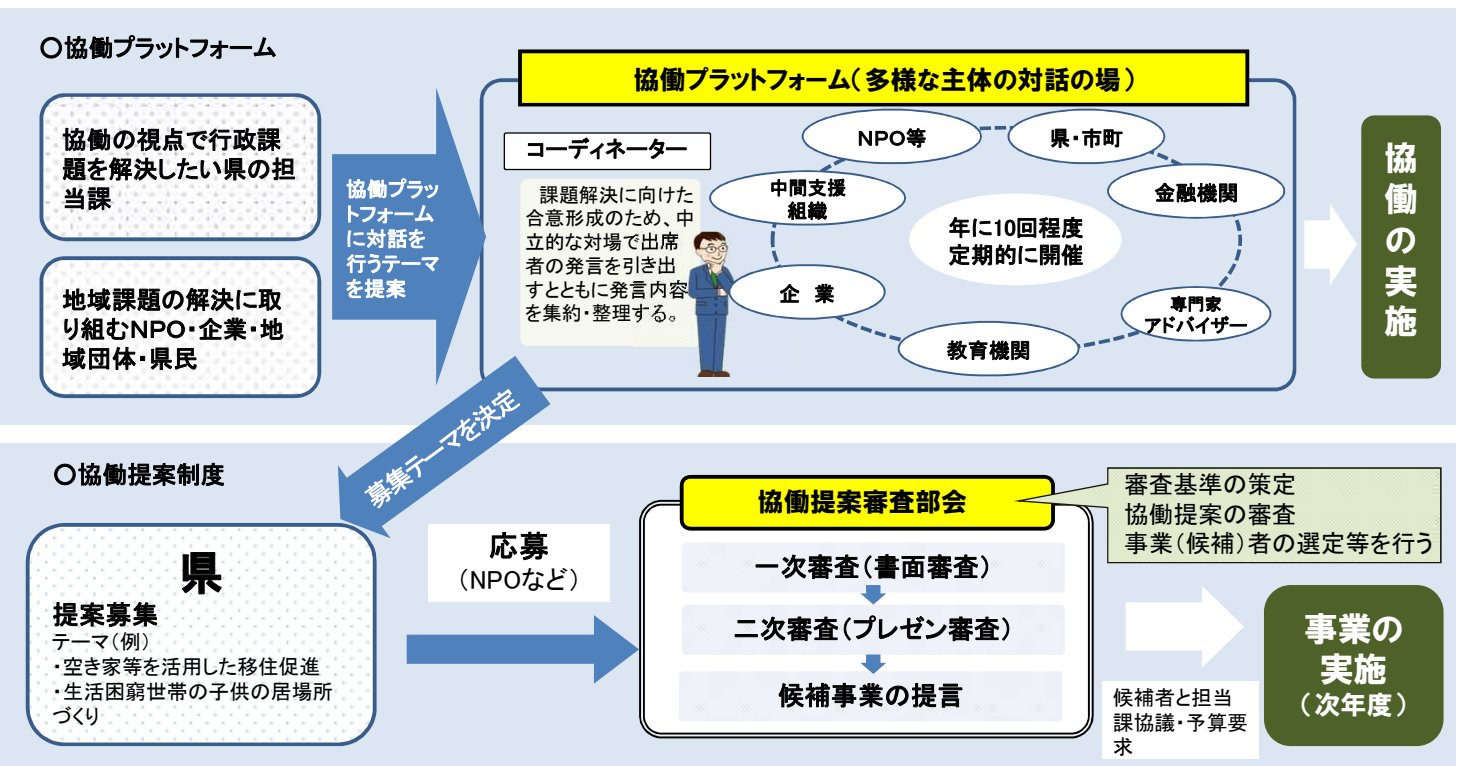
団体情報 基礎情報：団体の概要と連絡先情報の一覧【新規】
活動概要：設立の目的、主な活動実績、事業概要、協働の実績、今後の活動予定【新規】
運営体制：事務局スタッフや会員数など【新規】
財務状況：収支内訳、財務状況【新規】
添付資料：定款、事業報告書、財務諸表



協働プラットフォームの構築（413千円）

多様な主体による政策形成段階からの協働を図るため、多様な主体が共通の目標に向かって目的を共有し、連携・協力して活動を進めるための場である協働プラットフォームを定期的に開催する。

また、多様な主体と県とが対等な関係のもと、共通の目的・目標のために連携・協力することによって相乗効果を上げることが期待できる協働事業について、多様な主体から提案を募集し、採択された事業を次年度に協働事業として実施することにより、県が抱える課題の解決と協働型県政への転換を目指す。



新生美術館の整備【平成28年度予算概要】

予算額 228,054千円
(近代美術館・文化財保護課予算を含む)

資—総政5

新生美術館整備室
内線3346

新生美術館整備事業

190,633千円

施設整備

139,600千円

①基本設計・実施設計

新館建築、既存館改修、公園改修の設計を一体的に実施
(H28年度までの合計180,000千円)

②設計・施工関連業務（申請手数料）

設計および施工準備に必要な申請手数料

③整備推進アドバイザー

④整備検討調整業務

美術館機能向上

31,466千円

①作品収集・制作

滋賀にゆかりの作家やアール・ブリュット作品の収集、恒久展示作品制作調査

②デジタルデータ整備

作品や資料などの情報をデータベース化

③交通アクセス向上（ラッピングバス）

美術館へのアクセス手段としての公共交通をアピール

琵琶湖文化館機能移転

19,567千円

①作品移転に向けた調査・修復（文化財保護課）



みんなで創る
美術館の実現！



みんなで創る美術館プロジェクト事業

37,421千円

みんなで創る美術館の体制づくりと情報共有

4,689千円

①全県推進体制

みんなで創る美術館円卓会議、連携推進懇話会の開催

②整備情報発信・アーカイブ化

整備の方向性や情報をお知らせするフォーラム開催、リーフレット作成と、整備過程のアーカイブ化

③県民参加型美術館ファンド

作品購入等の財源確保のため、美術館整備に対し幅広い寄附を募る

「美の滋賀」の核となる美術館づくり

28,132千円

①「美の滋賀」拠点形成フェア（「美の糸口」アートにどぼん！開催）

「美の滋賀」の魅力を五感で楽しめるフェアを近代美術館および周辺公園内で開催

②「美の滋賀」の拠点形成につながる美術館展示（近代美術館）

③近代美術館クロージングシンポジウム（近代美術館）

地域とつながる美術館を実現

4,600千円

①美術館地域連携プログラム（近代美術館）

県内各地の施設・団体等と連携し、ワークショップやトークを実施

②アートツアーバスの運行

美術館と県内各地を結び、アートツーリズムのモデル提案にもつながるバスを運行

平成26年度
(2014年度)

平成27年度
(2015年度)

平成28年度
(2016年度)

平成29年度
(2017年度)

～平成31年度
～(2019年度)

(設計者決定)

工事設計

新館建築・既存館改修工事
公園改修工事

作品収集・恒久展示作品制作

「美の滋賀」の魅力に出会い楽しめる美術館
をめざし、平成31年度までにオープン！



しが統計アクション事業(S T A T)の展開

資一総政 7

統計課
内線3390

【予算額 6,120千円】

事業の目的

統計の
積極的利用

統計重視の
意識の定着

データリテラシー等の人材育成
のための環境作りを支援

統計データの理解・活用力の向上

講演会・説明会の開催

【600千円】

統計の専門家による講演会および統計調査の結果説明会を開催して、統計の利活用をPRします。

学校での統計講座の実施

【2,820千円】

小・中学校で、統計に関心を持ち、理解を深めることができるよう「出前授業」を行います。

統計相談窓口の開設

【200千円】

大学教員等がアドバイザーになって、県民等を対象に、統計に関する相談窓口を定期的を開催します。

大学等との連携

統計利活用のさらなる

推進を目指します！

情報発信

統計資料の整備

【2,500千円】

主要な統計データを累年(時系列)形式にまとめ、利用しやすいようにします。

統計資料室にある統計資料の目録を作成し、利用者が検索しやすいようにします。



(県庁新館2階の統計資料室)

